

平成26年度 学校だより

伏見板橋



前期
特別号

E-mail : itahashi-s@edu.city.kyoto.jp

京都市立伏見板橋小学校
校長 山下 高 史
TEL 075-611-5158
FAX 075-611-5290

未来を拓く板橋の子

—めざす子ども像—
今、何をするときか分かる子

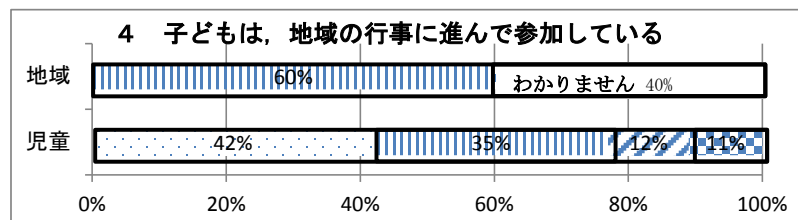
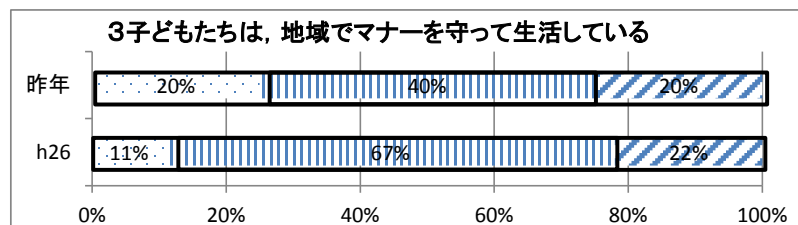
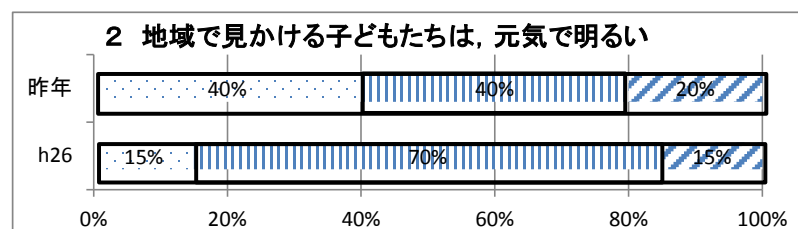
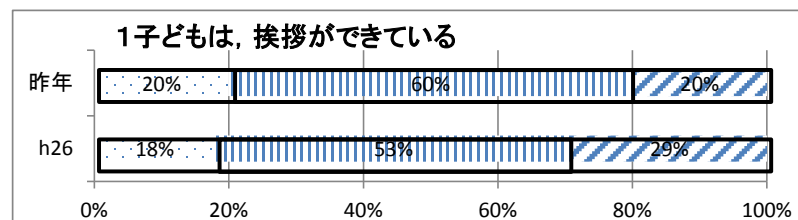
目標をもち、よく考え意欲的に学習する子（確かな学力）

出会う人・もの・時を大切にする子（豊かな心）

自ら判断し、ねばり強くやりぬく子（強い心と体）

地域の方々からのアンケート結果

（1～3は平成25年度後期との比較，4は児童の振り返りとの比較を表しています。）



《1 あいさつについて》

- 挨拶は学校内外を問わず、日常生活の中で心を通わす大切なものです。下校時の挨拶や教室での挨拶・返事などは進んでできている児童が多いのに、朝の集団登校での「おはようございます。」は元気もなく、返してくる児童の数は少ないのが今の現実です。朝から気持ちのよい挨拶で始まってほしいと思います。

《2・3 安全・マナーについて》

- 友達同士話に夢中になっているとあまり気にせず歩いているので、どこまで危険を感じているのか冷や冷やすることがあります。
- 毎年の事ですが、自転車のスピードを出しての走行で車や人とぶつかりそうになったりしている姿も見かけます。

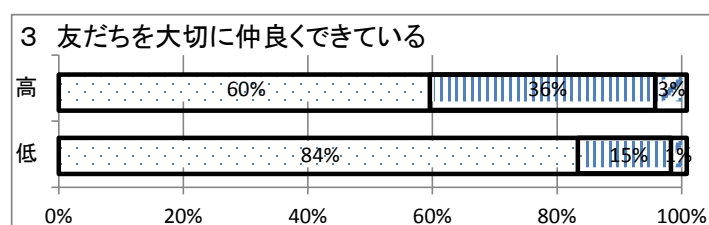
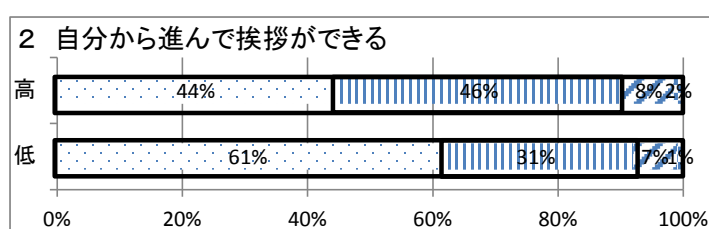
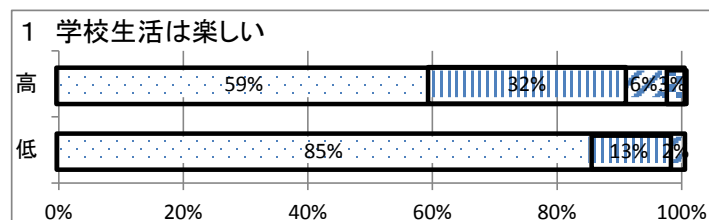
《4地域の行事への参加》

- 板橋まつりをはじめ、親と子の秋のつどい・サマーキャンプや少年補導主催の行事等に大変多くの児童が参加しています。

子どもの振り返り

高...4・5・6年
低...1・2・3年

よくできる 大体できる あまりできていない できていない



子どもの振り返り より

1 学校生活は楽しい

- 全校でほとんどの児童が「楽しい」と答えていますが、数%ではありますが「学校生活はあまり楽しくない」と答えている児童がいます。子ども自身に日々の学校生活を楽しみと感じられるように教師が日々の授業を改善・工夫していき学力を保障していくことや、保護者の皆さんや地域の皆さんと連携し、あらゆる場でよりよい人間関係を築けるよう力をつけさせていかなければなりません。すべての児童が明日を待ちわび、顔を輝かせて登校できる学校にしていきたいと思ひます。

2 自分から進んで挨拶ができる

- 挨拶は学校内外を問わず、日常生活の中で心を通わす大切なものです。低学年、高学年ともほとんどの児童が「自分から進んで挨拶ができています」と答えています。児童の意識と大人（教職員）との認識の差が大きいものの一つであります。児童は、教室での朝の挨拶や授業中の返事、下校時の挨拶などは進んでできていると振り返っているようです。

5 自分から進んで本を読んでいる

- 保護者のアンケートからも、子どもの振り返りからも「読書」の項目で高学年になるほど減る傾向が見られます。高学年になるほど塾や習い事へ通う子どもが増え、学校以外の場所での読書の時間がとりにくく考えられます。どれだけの本を読んでいるかという冊数だけでなく、その内容や時間、読書に対する姿勢など、いろいろな視点から、取り組み方を工夫する必要があると考えます。
- 学校では、朝の読書の時間は10分間だけで終わりますが、間があれば本を開いている児童の姿もちらほら見えてきました。家庭におかれましても声かけ等もよろしくお願ひします。また、地域の図書館の活用についても視野に入れて取り組みを進めていく必要があります。

6 家で予習・復習・宿題などできている

- かなり定着してきているのは、各学級の取組や家庭での支えが大きな原動力になっているからだと思ひます。学校から出される毎日の宿題は勿論必ずしなければならないもので、全学的にはほぼ確実にできています。宿題以外の家庭学習について、その内容や、自学自習に向けて工夫されているかという点について、今以上に各家庭との連携を深めて考えていかなければならない課題と考えます。

保護者・教職員による評価から



よくできている



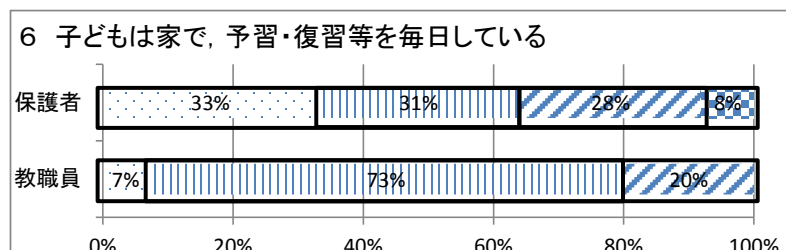
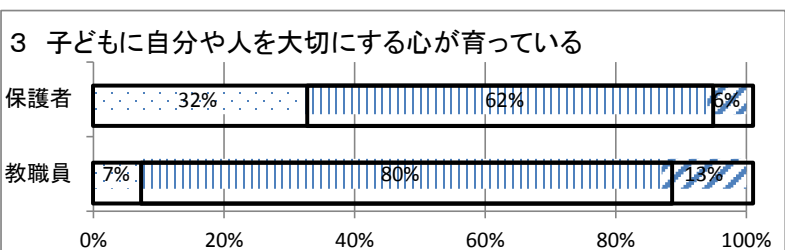
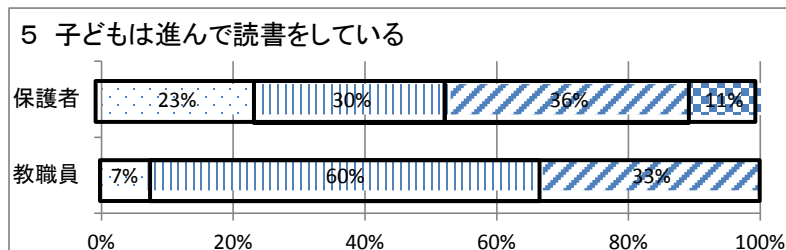
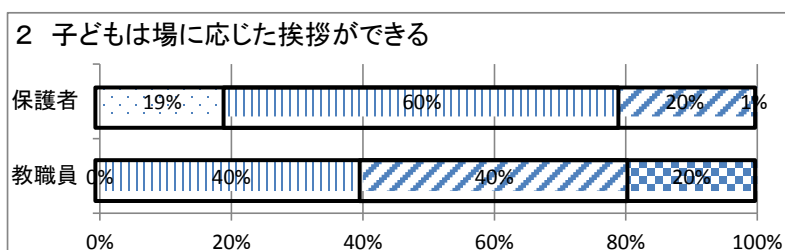
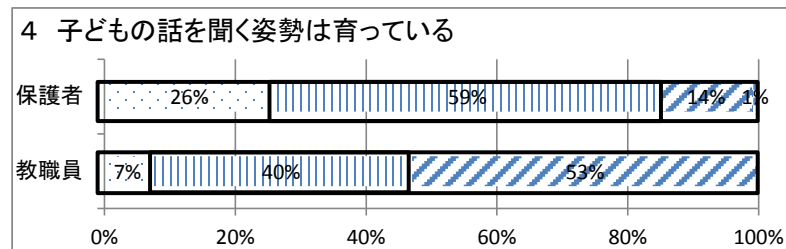
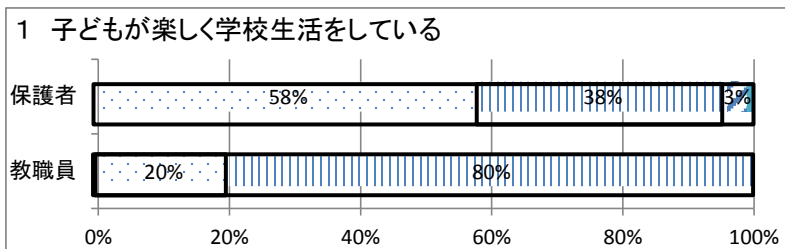
大体できている



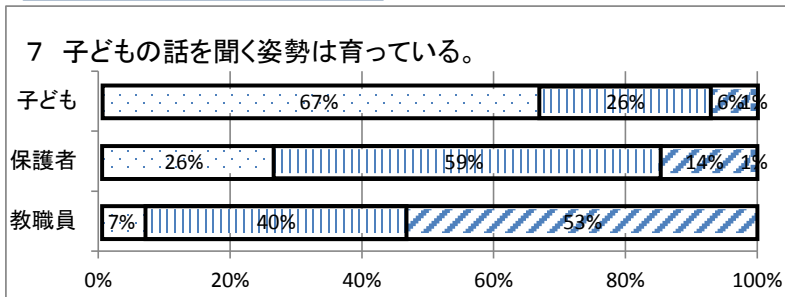
あまりできていない



できていない



話を聞くことについて



7 子どもの、話を聞く姿勢は育っている

この評価結果については、子どもの振り返りと、教職員の評価に大きな違いが表れています。大人が考える視点とは「話をしっかり聞き、自分の考えをまとめ、行動にうつす」と捉え、子どもは「授業中は、座って話を聞き勉強している」だから「できている」と捉えているものだと思います。人の話をしっかり聞くということは、学習においても日常生活においても基本となることです。授業中はもちろんのこと

平成26年度前期学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。

保護者の皆様からいただきました回答の中には本校の取組を肯定的に受け止めていただいているもの、ご指摘していただいているもの等様々な視点からのご意見や評価をいただきました。学校内部からはなかなか見えにくいこと、気づけなかったところ等知ることができました。

また、いろいろご指摘がありました、学校施設の改修・修繕（1階トイレ・廊下・雨漏り・外壁・体育館）や運動場のブランコや総合遊具のセーフティマットの設置や遊具・プールの安全整備等も進めております。

教職員の「自己評価」の結果と「子どもの振り返り」、「地域の方々の評価」と合わせて、継続すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていけるよう取組を進めてまいります。また、保護者の皆様と評価結果を共有し、連携していけたらと思います。よろしくお願いします。

保護者・教職員の振り返り結果から

1 子どもが楽しく学校生活をしている

保護者の皆様の評価も教職員の評価も昨年とほぼ同じ値で、子どもは楽しく学校生活をしているとみています。しかし、子どもの振り返りには若干の児童が「楽しくない」と答えている現実があります。

今後も当然のことながら学校は楽しいところであり、だれもが心を開いて、目を輝かせて来られることが、学校づくり・学級づくりの基本と捉え、子どもたちに接していきたいと思っています。

2 子どもは、場に応じたあいさつができる

昨年同様、「自分から進んであいさつができる」「場に応じたあいさつができている」の項目は、他の項目に比べて「あまりできていない・できていない」と答える保護者の皆様の20%に比べ教職員の答えが60%と大変多いです。しかし、地域の皆様の声の中には「よく挨拶できている・大体出来ている」が昨年並みの評価になっています。

挨拶がしっかりできる子どもに育てるには、ただ「挨拶をしましょう。」と声をかけるだけでは効果が薄いと考えられます。

児童会の『あいさつ運動』などで児童から働きかけたりしていますが取り組み方をさらに工夫していく必要があります。そして、見守る会の方々のご協力を得たり、周りの教職員・大人が模範となるよう積極的に働きかけをしていきたいと思っています。

5 子どもは、進んで読書している

高学年では、学校での授業を終えたあとにも、体力づくりや部活動に参加したり、塾や習い事に通ったりする子も多くあり、じっくり読書に向かう時間がとれない状況があるようです。毎日読書に取り組むことは大切なことだと考えます。家庭でもたっぷり時間のある土・日曜日を利用して読書に取り組むように声をかけをしたり、親子で読書の時間をもったりするなど、子どもたちに本の面白さ、楽しさにふれる時間を増やしていく必要があるでしょう。

6 子どもは家で、予習・復習などの家庭学習を毎日している

家庭学習については、保護者の皆様の評価64%、教職員の評価は80%ができていると答えています。しかし、これは宿題も含まれていると考えられます。さらに、その学習の内容や自学自習に向けていかに工夫し学力向上につなげていくという点については、考えていかなければならない課題だと思います。また、保護者の皆様の中にも「予習・復習などの家庭学習はあまりできていない・できていない」という評価が約36%みられます。このことから、家で宿題はしていても、予習・復習などはしていない子どもがいると考えられます。今後、その内容や進め方を紹介するなどして、さらなる習慣化を図っていききたいと思います。

人と人のつながりを大切に！
先ずは「あいさつ」から！

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「あいさつ運動」を実践しよう！

ご家庭でも「あいさつ」について、お子たちへの声かけをお願いします。